

証券コード 3011  
(発送日) 2025年6月12日  
(電子提供措置開始日) 2025年6月6日

株 主 各 位

埼玉県熊谷市石原一丁目102番地  
**株式会社 バナーズ**  
代表取締役社長 小林 由佳

## 第76回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜りありがたく厚くお礼申し上げます。  
さて、当社第76回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際しては、株主総会参考書類等の内容である情報（電子提供措置事項）について電子提供措置をとっており、インターネット上の以下の各ウェブサイトに掲載しておりますので、いずれかのウェブサイトにアクセスのうえ、ご確認くださいませようお願い申し上げます。

### 【当社ウェブサイト】

<https://www.banners.jp/ir/meeting.html>



### 【株主総会資料 掲載ウェブサイト】

<https://d.sokai.jp/3011/teiji/>



### 【東京証券取引所ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）】

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>



(上記の東証ウェブサイトへアクセスいただき、「銘柄名(会社名)」に「バナーズ」又は「コード」に当社証券コード「3011」を入力・検索し、「基本情報」「縦覧書類 / PR情報」を順に選択して、「縦覧書類」にある「株主総会招集通知 / 株主総会資料」欄よりご確認ください。)

なお、当日ご出席されない場合は、インターネット又は書面（郵送）によって議決権を行使することができますので、お手数ながら株主総会参考書類をご検討のうえ、2025年6月26日（木曜日）午後5時30分までに議決権を行使してくださいませようお願い申し上げます。

### 〔インターネットによる議決権行使の場合〕

当社指定の議決権行使ウェブサイト (<https://www.web54.net>) にアクセスしていただき、本招集ご通知とあわせてお送りする議決権行使書用紙に表示された「議決権行使コード」及び「パスワード」をご利用のうえ、画面の案内にしたがって、議案に対する賛否を上記の行使期限までにご入力ください。

なお、議決権行使書用紙右下記載の二次元コードを読み取ることで議決権行使コード及びパスワードを入力することなく議決権行使ウェブサイトログインすることができます。

### 〔書面（郵送）による議決権行使の場合〕

議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、上記の行使期限までに到着するようご返送ください。

敬 具

#### 記

1. 日 時 2025年6月27日（金曜日）午前11時
2. 場 所 埼玉県熊谷市拾六間111番地1  
熊谷文化創造館さくらめいと 会議室2  
(会場が前回と異なっておりますので、末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照いただき、お間違えのないようご注意ください。)
3. 目的事項  
報告事項
  1. 第76期（2024年4月1日から2025年3月31日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
  2. 第76期（2024年4月1日から2025年3月31日まで）計算書類報告の件

#### 決議事項

- 第1号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）4名選任の件
- 第2号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

#### 4. 招集にあたっての決定事項（議決権行使についてのご案内）

- (1)書面（郵送）により議決権を行使された場合の議決権行使書において、議案に対する賛否の表示がない場合は、賛成の表示があったものとしてお取り扱いいたします。
- (2)インターネットにより複数回、議決権を行使された場合は、最後に行われた議決権行使を有効なものとしてお取り扱いいたします。
- (3)インターネットと書面（郵送）により重複して議決権を行使された場合は、到着日時を問わず、インターネットによる議決権行使を有効なものとしてお取り扱いいたします。

以 上

- ~~~~~
- ◎ 当日ご出席の際は、お手数ながら議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
  - ◎ 電子提供措置事項に修正が生じた場合は、上記インターネット上の各ウェブサイトにおいて、その旨、修正前及び修正後の事項を掲載いたします。
  - ◎ 書面交付請求をいただいた株主様には、電子提供措置事項をあわせてお送りいたしますが、当該書面は、法令及び当社定款第15条の規定に基づき、次に掲げる事項を除いております。
    - ①事業報告の「業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況」
    - ②連結計算書類の「連結株主資本等変動計算書」「連結注記表」

③計算書類の「株主資本等変動計算書」「個別注記表」

したがって、当該書面に記載している事業報告、連結計算書類及び計算書類は、会計監査人が会計監査報告を、監査等委員会が監査報告を作成するに際して監査した対象書類の一部であります。

- ◎ 本定時株主総会の決議結果につきましては、決議通知のご送付に代えて、上記インターネット上の当社ウェブサイトに掲載させていただきます。
- ◎ 当日ご出席の際にサポートが必要な株主様は、会場スタッフへお声がけください。
- ◎ お土産のご用意はございません。

# 事業報告

(2024年4月1日から)  
(2025年3月31日まで)

## 1. 企業集団の現況

### (1) 当事業年度の事業の状況

#### ① 事業の経過及び成果

当連結会計年度における我が国経済は、雇用・所得環境が改善する下で緩やかな回復が続く一方、欧米における高い金利水準の継続に伴う影響や中国における不動産市場の停滞に伴う影響、通商政策等アメリカの政策動向による影響や国内の物価上昇による消費者マインドの下振れ等の景気を下押しするリスク等、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような事業環境下におきまして、当社グループは全社を挙げて各事業の特性及び付加価値性を活かした事業活動を推進いたしました。

不動産利用事業におきましては、埼玉県本庄市の既存物件の再開発を継続するとともに、他の既存物件の収益の安定確保に努めながら更なる有効活用を検討してまいりました。また、新規物件の取得はなかったものの、不動産市況や金利動向を考え合わせ、地域に根ざした成長性や資産性の見込める優良物件の取得に向けて、積極的に取り組んでまいりました。

自動車販売事業におきましては、「ZR-V」・「STEPWGN」・「VEZEL」・「FREED」・「FIT」・「Nシリーズ」を主軸とした販売活動を進め、また修理点検部門におきましては人員の技術向上に努め、Webを利用した点検予約システム等も活用した結果、増益となりました。新型車の発売時やキャンペーン実施時は積極的に宣伝活動を行うとともに、買い換え需要の掘り起こしや中古車への乗り換えの提案も行い、車両売上増加に努めました。また、サービス売上の増加を図るべく、車検や定期点検の案内をきめ細かく行い、作業効率向上のための設備投資を行いました。

楽器販売事業におきましては、世界的な物価上昇や円安の影響による仕入原価の上昇を反映した適正な価格設定を行った結果、大幅な値上げとなり、値上げ前の駆け込み需要が売上増加に繋がりました。同時に、経費削減や市場環境の変化に対応した商品投入及び販売活動の実施により収益の確保に努めました。また、リペア部門及び営業部門共に人員を増強することにより、万全なメンテナンスやアフターサービスを充実させ、専門性の高い選ばれ続けるサービスの提供に向けて体制を強化し、企業価値の向上に取り組んでまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高5,601百万円（前連結会計年度比119.6%）、営業利益343百万円（同126.2%）、経常利益316百万円（同130.4%）、親会社株主に帰属する当期純利益250百万円（同135.8%）となりました。

事業区分別の状況は次のとおりです。

[不動産利用事業]

売上高は419百万円（前連結会計年度比102.2%）、セグメント利益は300百万円（同103.3%）となりました。

[自動車販売事業]

売上高は4,529百万円（前連結会計年度比120.3%）、セグメント利益は94百万円（同127.8%）となりました。

[楽器販売事業]

売上高は652百万円（前連結会計年度比128.2%）、セグメント利益は55百万円（同188.8%）となりました。

② 設備投資の状況

特記すべき事項はありません。

③ 資金調達の状況

特記すべき事項はありません。

## (2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

区分	第73期 (2022年3月期)	第74期 (2023年3月期)	第75期 (2024年3月期)	第76期 (当連結会計年度 (2025年3月期))
売上高 (百万円)	3,924	4,335	4,684	5,601
経常利益 (百万円)	146	192	242	316
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	141	155	184	250
1株当たり当期純利益 (円)	8.78	9.78	11.98	16.33
総資産 (百万円)	9,136	9,043	8,702	8,870
純資産 (百万円)	2,336	2,448	2,490	2,660

## (3) 重要な親会社及び子会社の状況

### ① 親会社の状況

該当事項はありません。

### ② 重要な子会社の状況

会 社 名	資本金	当社の議 決権比率	主 要 な 事 業 内 容
	百万円	%	
株式会社ホンダニュー埼玉	10	100	自動車販売、修理・保険販売
日本ダブルリード株式会社	50	100	楽器販売
株式会社ルボア	6	50	楽器関連事業

## (4) 対処すべき課題

不動産利用事業におきましては、地域住民の生活に密着した店舗作りやテナント誘致をすすめてまいりました結果、安定した収益が計上できております。保有しております施設は、単体型賃貸ビル事業から複合型ビル事業へ転向可能な恵まれた環境と立地条件を備えておりますので、この経営資源を最大限に活用していくとともに、新規優良物件の取得につきましても、賃貸先の経営状態を見極めながら、高利回りで安定収益が望める物件の取得が課題であると考えております。

自動車販売事業におきましては、車両価格の上昇に加え燃料費や運送費等の経費上昇により、経営環境は厳しさを増しております。また、サービススタッフや営業スタッフの離職に伴う人員補充が困難な上、新型車の発売に際して安全運転支援システムの普及や車両の電動化・知能化により、これまでにない商品知識が必要となるため、従業員教育も念入りに実施しておりま

す。

楽器販売事業におきましては、世界的な物価上昇や円安の影響による仕入原価の上昇に対して、販売価格の改定の上げ幅や実施時期を慎重に見極める必要があります。また、海外メーカー等からの情報収集を密に行い、職業演奏家の要求等に応えられる専門性を持ち続ける努力が必要となります。新規顧客の獲得に向けて積極的に営業活動を行うとともに、既存顧客に対して高度な技術に基づいた点検修理等の綿密なアフターサービスを行えるよう、海外メーカーに向いて技術研修を受ける等の対応を図っております。

(5) 主要な事業内容（2025年3月31日現在）

当社グループは、不動産利用事業、自動車販売事業及び楽器販売事業を行っておりますが、各事業の内容は以下のとおりであります。

① 不動産利用事業

土地・建物並びに駐車場の賃貸を行っております。

（連結子会社・株式会社ホンダニュー埼玉への店舗賃貸含む）

② 自動車販売事業

ホンダ車の販売・整備並びに保険の販売を行っております。

③ 楽器販売事業

楽器の輸入・販売・修理を行っております。

(6) 主要な営業所及び工場（2025年3月31日現在）

① 当社 本社（埼玉県熊谷市）

② 子会社

株式会社ホンダニュー埼玉	本社・熊谷店（埼玉県熊谷市）、寄居店（埼玉県大里郡寄居町）、本庄店（埼玉県本庄市）
日本ダブルリード株式会社	本社（東京都新宿区）
株式会社ルボア	本社（東京都新宿区）

(7) 使用人の状況 (2025年3月31日現在)

① 企業集団の使用人の状況

事業区分	使用人数	前連結会計年度末比増減
不動産利用事業	1 (-) 名	- (-)
自動車販売事業	69 (8) 名	3名増 (4名増)
楽器販売事業	14 (16) 名	1名増 (-)
全社 (共通)	5 (-) 名	1名減 (-)
合計	89 (24) 名	3名増 (4名増)

(注) 1. 使用人数は就業員数であり、パート及び嘱託社員は ( ) 内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2. 「全社 (共通)」として記載している使用人数は、特定の事業に区分できない管理部門に所属しているものであります。

② 当社の使用人の状況

使用人数	前事業年度末比増減	平均年齢	平均勤続年数
6 (-) 名	1名減 (-)	46.6歳	7.8年

(注) 使用人数は就業員数であり、パート及び嘱託社員は ( ) 内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(8) 主要な借入先の状況 (2025年3月31日現在)

借入先	借入額
株式会社群馬銀行	1,514百万円
株式会社武蔵野銀行	615百万円
株式会社足利銀行	575百万円
埼玉縣信用金庫	180百万円
株式会社八十二銀行	100百万円
株式会社日本政策金融公庫	86百万円
株式会社きらぼし銀行	15百万円
株式会社商工組合中央金庫	12百万円

(9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 2. 会社の現況

### (1) 株式の状況（2025年3月31日現在）

- |            |             |
|------------|-------------|
| ① 発行可能株式総数 | 50,000,000株 |
| ② 発行済株式の総数 | 20,236,086株 |
| ③ 株主数      | 7,364名      |
| ④ 大株主      |             |

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
株式会社エルガみらい研究所	3,028	19.77
みよし建設株式会社	996	6.50
株式会社ハイタッチ	917	5.98
有限会社昭和建材	785	5.13
小山 嵩夫	613	4.00
合同会社ゼンクーサ	469	3.06
川口 文三郎	428	2.79
鈴木 義雄	396	2.58
シニア開発株式会社	326	2.13
中島 和信	306	2.00

(注) 1. 当社は、自己株式を4,923,492株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

### (2) 新株予約権等の状況

- ① 当社役員が保有している職務執行の対価として交付した新株予約権の状況  
該当事項はありません。
- ② 当事業年度中に職務執行の対価として使用人等に対し交付した新株予約権の状況  
該当事項はありません。
- ③ その他の新株予約権等に関する重要な事項  
該当事項はありません。

### (3) 会社役員の状況

#### ① 取締役の状況（2025年3月31日現在）

会社における地位	氏名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役社長	小林 由佳	㈱ホンダニュー埼玉代表取締役 日本ダブルリード㈱代表取締役
取締役	柴田 文徳	㈱ホンダニュー埼玉監査役 ㈱ルポア監査役
取締役	安藤 功	㈱ホンダニュー埼玉取締役 ㈱ルポア取締役
取締役	萩森 弥郁夫	㈱ルポア代表取締役
取締役（監査等委員）	今井 潔	㈱ホンダニュー埼玉取締役（非業務執行）
取締役（監査等委員）	小野 晴美	日本ダブルリード㈱監査役
取締役（監査等委員）	中田 研二	

- (注) 1. 取締役（監査等委員）今井潔、小野晴美、中田研二の各氏は社外取締役であります。
2. 取締役（監査等委員）今井潔、中田研二の両氏は、以下のとおり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
- ・今井潔氏は、金融機関での長年の業務経験があります。
  - ・中田研二氏は、税理士の資格を有しております。
3. 当社は、内部監査室を設置して監査等委員会と連携する体制としているため、必ずしも常勤者の選定を必要としないことから、常勤の監査等委員を選定していません。
4. 当社は、取締役（監査等委員）今井潔、小野晴美、中田研二の各氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届けております。

#### ② 当事業年度に係る取締役の報酬等

##### イ. 当事業年度に係る報酬等の総額

区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)			対象となる役員 の員数 (名)
		基本報酬	業績連動報酬等	非金銭報酬等	
取締役（監査等委員を除く） （うち社外取締役）	10.2 (-)	10.2 (-)	- (-)	- (-)	4 (-)
取締役（監査等委員） （うち社外取締役）	4.4 (4.4)	4.4 (4.4)	- (-)	- (-)	3 (3)
合計 （うち社外役員）	14.6 (4.4)	14.6 (4.4)	- (-)	- (-)	7 (3)

(注) 取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

**ロ. 当事業年度において支払った役員退職慰労金**

該当事項はありません。

**ハ. 取締役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項**

取締役（監査等委員を除く。以下「取締役」という。）の報酬限度額は、2022年6月29日開催の第73回定時株主総会において年額80百万円以内（使用人兼務取締役の使用人分給与は含まない。）と決議しております。当該定時株主総会終結時点の対象となる取締役の員数は4名です。監査等委員である取締役の報酬限度額は、2022年6月29日開催の第73回定時株主総会において年額30百万円以内と決議しております。当該定時株主総会終結時点の対象となる監査等委員である取締役の員数は3名です。

**二. 役員報酬等の内容の決定に関する方針等**

当社は、2022年6月29日開催の取締役会において、取締役（監査等委員を除く。以下「取締役」という。）の個人別の報酬等の内容についての決定方針を決議しております。

取締役会は、当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等について、報酬等の内容の決定方法及び決定された報酬等の内容が取締役会で決議された決定方針と整合していることを確認しており、当該決定方針に沿うものであると判断しております。

取締役の個人別の報酬等の内容についての決定方針の内容の概要は次のとおりです。

取締役の報酬は、月例の固定報酬と退職慰労金のみとし、いずれも金銭によるものとします。固定報酬は、役位、職責、在任年数、社内取締役、社外取締役の別、その他会社の業績等を総合考慮して決定するものとします。退職慰労金は、「役員退職慰労金支給規程」に基づいて決定し、在任各年の報酬月額と役位に応じて算出された一定額を毎年引き当て、退任時に支給するものとします。

具体的な報酬の額については、取締役会決議に基づき代表取締役社長にその決定を委任するものとします。代表取締役社長は、独立社外取締役及び監査等委員から適切な意見及び助言等を踏まえて透明性を確保した上で、株主総会において承認を得た報酬等の上限額の範囲内において決定するものとします。

**ホ. 取締役の個人別の報酬等の決定に係る委任に関する事項**

取締役会は、代表取締役社長小林由佳に対し各取締役（監査等委員を除く。以下「取締役」という。）の報酬等の具体的な内容の決定を

委任しております。委任した理由は、当社全体の業績等を勘案しつつ各取締役の職責について評価を行うには代表取締役社長が適していると判断したためであります。

### ③ 社外役員に関する事項

#### イ. 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

地 位	氏 名	兼職する法人等	兼職の内容	当社との関係
取締役 (監査等委員)	今 井 潔	(株)ホンダニュー埼玉	取締役 (非業務執行)	子会社
取締役 (監査等委員)	小 野 晴 美	日本ダブルリード(株)	監査役	子会社

#### ロ. 当事業年度における主な活動状況

	出席状況、発言状況及び 社外取締役に期待される役割に関して行った職務の概要
取締役 (監査等委員) 今 井 潔	当事業年度に開催された取締役会7回のうち7回、監査等委員会7回のうち7回出席いたしました。金融機関での長年の業務経験による専門的見地から、経営に対する的確な発言を行っております。また、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っており、監査等委員会において、当社の経理システム並びに内部監査について適宜、必要な発言を行っております。
取締役 (監査等委員) 小 野 晴 美	当事業年度に開催された取締役会7回のうち7回、監査等委員会7回のうち7回出席いたしました。企業経営についての十分な見識から、経営に対する的確な発言を行っております。また、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っており、監査等委員会において、当社の内部監査について適宜、必要な発言を行っております。
取締役 (監査等委員) 中 田 研 二	当事業年度に開催された取締役会7回のうち7回、監査等委員会7回のうち7回出席いたしました。主に税理士としての専門的見地から、経営に対する的確な発言を行っております。また、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っており、監査等委員会において、当社の経理システム並びに内部監査について適宜、必要な発言を行っております。

#### (4) 会計監査人の状況

- ① 名称 城南監査法人
- ② 報酬等の額

	報酬等の額
当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額	12百万円
当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	12

- (注) 1. 当社の子会社につきましても当社の会計監査人による監査を受けております。
2. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
3. 監査等委員会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠等が適切であるかどうかについて必要な検証を行った上で、会計監査人の報酬の額について同意の判断をしました。

#### ③ 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査等委員会は、会計監査人の職務の執行に支障がある等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査等委員全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

#### (5) 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の最重要課題の一つと位置付けており、そのためには中長期的な視野に基づいた企業価値の増大が欠かせないものであると考えております。配当の決定に当たり、安定した配当を継続的に行うことができるよう、将来の事業拡大に必要な内部留保を考慮した上で、業績動向や財務状況等を総合的に勘案し判断しております。

当事業年度の期末配当金につきましては、1株につき5円とさせていただきます。

# 連結貸借対照表

(2025年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>流 動 資 産</b>	<b>2,046,985</b>	<b>流 動 負 債</b>	<b>1,466,559</b>
現金及び預金	1,098,894	支払手形及び買掛金	356,779
受取手形及び売掛金	113,982	短期借入金	312,000
商品及び製品	797,619	1年内返済予定の長期借入金	179,431
原材料及び貯蔵品	14,097	1年内返還予定の預り保証金	57,420
前渡金	3,138	未払金	24,682
前払費用	9,740	未払費用	34,425
1年内回収予定の長期貸付金	66	未払法人税等	52,020
その他	12,295	未払消費税等	61,167
貸倒引当金	△2,849	賞与引当金	20,524
<b>固 定 資 産</b>	<b>6,823,682</b>	前受金	347,455
<b>有形固定資産</b>	<b>6,411,066</b>	その他	20,653
建物及び構築物	2,019,098	<b>固 定 負 債</b>	<b>4,743,455</b>
機械装置及び運搬具	101,795	長期借入金	2,610,423
工具、器具及び備品	24,724	繰延税金負債	0
土地	4,255,896	役員退職慰労引当金	21,001
リース資産	4,886	退職給付に係る負債	143,614
建設仮勘定	4,665	預り保証金	1,149,546
<b>無形固定資産</b>	<b>2,240</b>	長期前受収益	73,841
<b>投資その他の資産</b>	<b>410,375</b>	再評価に係る繰延税金負債	739,400
投資有価証券	1,502	その他	5,627
長期貸付金	297,207	<b>負 債 合 計</b>	<b>6,210,015</b>
繰延税金資産	93,739	<b>純 資 産 の 部</b>	
その他	29,195	<b>株 主 資 本</b>	<b>1,019,186</b>
貸倒引当金	△11,269	資本金	307,370
<b>資 産 合 計</b>	<b>8,870,668</b>	資本剰余金	576,022
		利益剰余金	965,697
		自己株式	△829,904
		その他の包括利益累計額	<b>1,618,381</b>
		土地再評価差額金	1,618,381
		<b>非支配株主持分</b>	<b>23,085</b>
		<b>純 資 産 合 計</b>	<b>2,660,652</b>
		<b>負債・純資産合計</b>	<b>8,870,668</b>

## 連結損益計算書

(2024年4月1日から  
2025年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金	額
売 上 高		5,601,271
製品及び商品売上高	5,181,698	
不動産利用収入	419,572	
売 上 原 価		4,303,747
製品及び商品売上原価	4,142,917	
不動産利用経費	160,829	
売 上 総 利 益		1,297,523
販売費及び一般管理費		953,622
営 業 利 益		343,901
営 業 外 収 益		8,574
受 取 利 息	4,463	
受 取 配 当 金	57	
そ の 他	4,052	
営 業 外 費 用		35,933
支 払 利 息	31,196	
そ の 他	4,737	
経 常 利 益		316,541
特 別 利 益		1,255
固定資産売却益	1,255	
特 別 損 失		0
固定資産除却損	0	
税金等調整前当期純利益		317,797
法人税、住民税及び事業税		77,446
法人税等調整額		△12,347
当 期 純 利 益		252,698
非支配株主に帰属する 当期純利益		2,679
親会社株主に帰属する 当期純利益		250,019

# 貸借対照表

(2025年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>流 動 資 産</b>	<b>186,093</b>	<b>流 動 負 債</b>	<b>282,354</b>
現金及び預金	181,265	短期借入金	12,000
原材料及び貯蔵品	9	1年内返済予定の長期借入金	125,952
前払費用	2,284	1年内返還予定の預り保証金	57,420
預け金	2,534	未払金	4,720
<b>固 定 資 産</b>	<b>6,833,975</b>	未払費用	2,105
<b>有形固定資産</b>	<b>6,230,829</b>	未払法人税等	18,135
建物及び構築物	1,957,019	未払消費税等	8,573
機械装置及び運搬具	588	賞与引当金	955
工具、器具及び備品	12,659	前受金	43,146
土地	4,255,896	前受収益	9,082
建設仮勘定	4,665	その他	263
<b>無形固定資産</b>	<b>1,042</b>	<b>固 定 負 債</b>	<b>4,495,976</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>602,103</b>	長期借入金	2,471,496
投資有価証券	1,202	役員退職慰労引当金	21,001
関係会社株式	278,166	退職給付引当金	680
長期貸付金	290,000	預り保証金	1,189,546
繰延税金資産	30,195	長期前受収益	73,841
出資金	1,010	再評価に係る繰延税金負債	739,400
その他	1,529	長期未払金	9
<b>資 産 合 計</b>	<b>7,020,069</b>	<b>負 債 合 計</b>	<b>4,778,330</b>
		<b>純 資 産 の 部</b>	
		株 主 資 本	623,357
		資 本 金	307,370
		資 本 剰 余 金	573,850
		その他資本剰余金	573,850
		利 益 剰 余 金	572,040
		利 益 準 備 金	23,856
		その他利益剰余金	548,184
		固定資産圧縮積立金	2,910
		繰越利益剰余金	545,273
		自 己 株 式	△829,904
		評価・換算差額等	1,618,381
		土地再評価差額金	1,618,381
		<b>純 資 産 合 計</b>	<b>2,241,738</b>
		<b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b>	<b>7,020,069</b>

# 損益計算書

(2024年4月1日から  
2025年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金	額
売 上 高		481,252
不 動 産 利 用 収 入	481,252	
売 上 原 価		181,152
不 動 産 利 用 経 費	181,152	
売 上 総 利 益		300,100
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		107,291
営 業 利 益		192,808
営 業 外 収 益		14,692
受 取 利 息	4,410	
受 取 配 当 金	9,463	
そ の 他	818	
営 業 外 費 用		28,349
支 払 利 息	27,711	
そ の 他	638	
経 常 利 益		179,151
特 別 利 益		55
固 定 資 産 売 却 益	55	
税 引 前 当 期 純 利 益		179,207
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税		26,906
法 人 税 等 調 整 額		△2,268
当 期 純 利 益		154,570

# 連結計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2025年5月15日

株式会社 バナーズ  
取締役会 御中

城南監査法人  
東京都渋谷区

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 加藤 尽

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 塩野 治夫

### 監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社バナーズの2024年4月1日から2025年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社バナーズ及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

### 連結計算書類に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2025年5月15日

株式会社 バナーズ  
取締役会 御中

城南監査法人  
東京都渋谷区

指定社員 業務執行社員	公認会計士	加藤	尽
指定社員 業務執行社員	公認会計士	塩野	治夫

### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社バナーズの2024年4月1日から2025年3月31日までの第76期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

### 計算書類等に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 監査等委員会の監査報告

## 監 査 報 告 書

当監査等委員会は、2024年4月1日から2025年3月31日までの第76期事業年度における取締役の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について以下のとおり報告いたします。

### 1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロ及びびハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施いたしました。

- ① 監査等委員会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部統制部門と連携の上、重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
- ② 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

### 2. 監査の結果

#### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
  - ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
  - ③ 内部統制システムに関する取締役会の決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。
- (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果  
会計監査人城南監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。
- (3) 連結計算書類の監査結果  
会計監査人城南監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2025年5月22日

株式会社パナース 監査等委員会

監査等委員	今 井	潔	Ⓔ
監査等委員	小 野	晴 美	Ⓔ
監査等委員	中 田	研 二	Ⓔ

(注) 監査等委員今井潔、小野晴美、中田研二は、会社法第2条第15号及び第331条第6項に規定する社外取締役であります。

## 株主総会参考書類

### 第1号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）4名選任の件

取締役（監査等委員である取締役を除く。以下、本議案において同じ。）4名全員は、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、取締役4名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関しましては、当社の監査等委員会は、取締役会の監督と執行のあり方、取締役候補者の選任基準等を確認し、検討を行いました。その結果、各候補者の当事業年度における業務執行状況及び業績等を勘案し、全ての候補者について適任であると判断しております。

取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	氏名等 (生年月日)	略歴、当社における地位及び担当 (重要な兼職の状況)
1	こばやし ゆか 小林 由佳 (1972年9月25日生)  所有自社株式数： 173,435株 (2025年3月31日現在)	1995年4月 サントリー(株)（現サントリーホールディングス(株)）入社 2003年5月 同社退社 2006年1月 MHDディアジオ モエ ヘネシー(株)入社 2008年4月 同社退社 2009年11月 日本ダブルリード(株)取締役就任 2013年4月 同社代表取締役就任（現任） 2013年6月 当社取締役就任 2016年6月 当社代表取締役就任（現任） 2023年6月 (株)ホンダニュー埼玉代表取締役就任（現任）
2	しげた ふみのり 柴田 文徳 (1966年8月1日生)  所有自社株式数： 29,500株 (2025年3月31日現在)	2007年1月 当社入社 2007年2月 当社執行役員財務部長 2011年6月 (株)ホンダニュー埼玉監査役就任 2015年6月 当社取締役就任（現任） 2017年6月 (株)ホンダニュー埼玉取締役就任 2019年5月 (株)ルポア監査役就任（現任） 2022年6月 (株)ホンダニュー埼玉監査役就任（現任）
3	あんどう いさお 安藤 功 (1962年6月6日生)  所有自社株式数： 5,000株 (2025年3月31日現在)	1982年3月 三光電子工業(株)（現解散 三洋電子部品販売(株)）入社 2013年9月 同社退社 2015年5月 当社入社 2017年2月 (株)ルポア取締役就任（現任） 2019年6月 当社取締役就任（現任） 2020年6月 (株)ホンダニュー埼玉取締役就任（現任）
4	はぎもり みかお 萩森 弥郁夫 (1958年9月18日生)  所有自社株式数： 5,000株 (2025年3月31日現在)	2014年6月 当社取締役就任（現任） 2015年4月 (株)ルポア代表取締役就任（現任）

(注) 各候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。

【ご参考】

当社取締役の有する主たる知識・経験・能力一覧表（スキル・マトリックス）

第1号議案が原案どおり承認可決されますと、当社取締役の有する主たる知識・経験・能力は以下のとおりとなります。

氏名	役職名	企業経営・ 経営戦略	法務・ リスク 管理	ESG・ サステナ ビリティ	財務・ 会計	IT・ デジタル	人事・ 労務・ 人材開発
小林 由佳	代表 取締役	●		●			●
柴田 文徳	取締役	●	●				●
安藤 功	取締役			●	●	●	
萩森 弥郁夫	取締役	●		●		●	
今井 潔	社外 監査等 委員	●	●		●		
小野 晴美	社外 監査等 委員	●		●			●
中田 研二	社外 監査等 委員		●		●	●	

（注）上記一覧表は、各氏の有する全ての知識・経験・能力を表すものではありません。

## 第2号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

法令に定める監査等委員である取締役の員数を欠く事になる場合に備え、補欠の監査等委員である取締役1名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関しましては、監査等委員会の同意を得ております。

補欠の監査等委員である取締役候補者は、次のとおりであります。

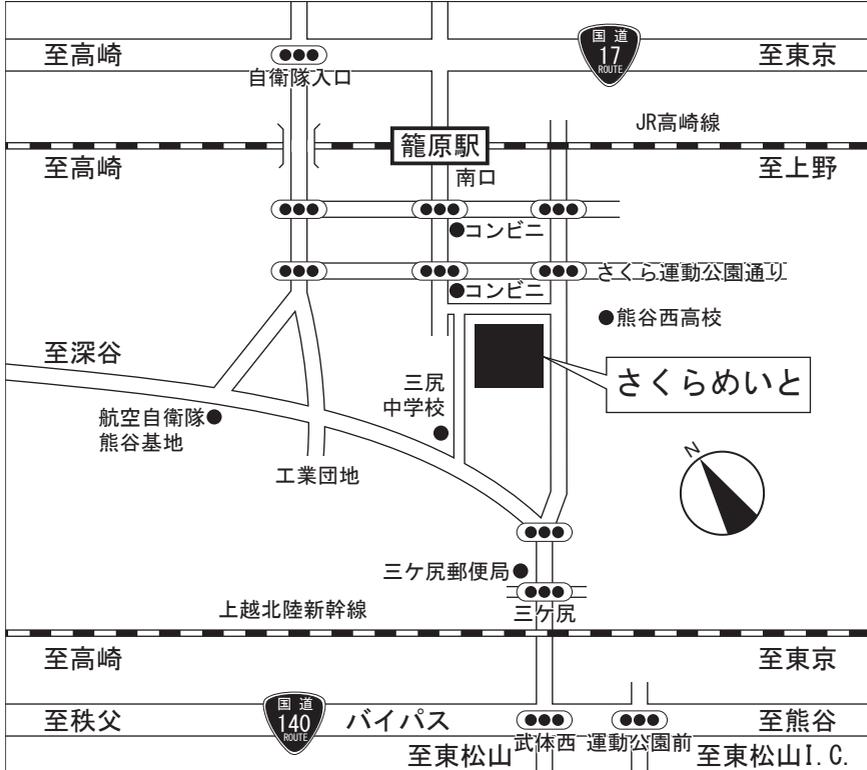
氏名等 (生年月日)	略歴 (重要な兼職の状況)
かねおか なおこ 金岡 直子 (1970年12月7日生)  所有自社株式数： 一株 (2025年3月31日現在)	2018年 日本デンソー通信(有)退社

- (注) 1. 候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。  
2. 金岡直子氏は、補欠の監査等委員である社外取締役候補者であります。  
3. 金岡直子氏につきましては、過去に会社経営に関与した経験はありませんが、その見識を活かし、監査等委員である社外取締役として多面的な視点から客観的な意見をいただくことができ、適切に業務を遂行できるものと判断したことから、補欠の監査等委員である社外取締役として選任をお願いするものであります。

以上

# 株主総会会場ご案内図

会 場 熊谷文化創造館さくらめいと 会議室2  
 〒360-0846 埼玉県熊谷市拾六間111番地 1  
 電話 048-532-0002



## ●交通のご案内

J R 高崎線 籠原駅下車 南口より徒歩15分

- ・ 籠原駅南口より市内循環バスもございますが、本数がかなり限られておりますのでご注意ください。
- ・ 会場には駐車場がございますが、駐車スペースに限りがございます。満車の場合は、近隣の有料駐車場をご利用ください。

※お土産のご用意はございません。